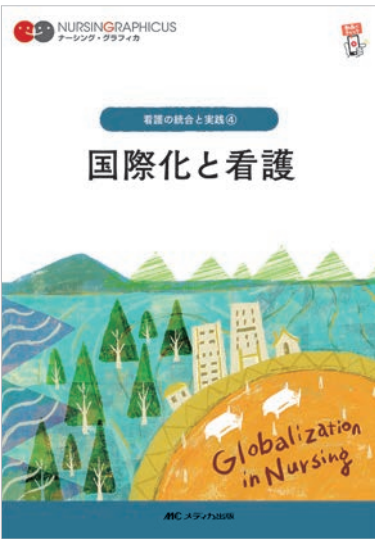


「海外における国際看護」と「国内における国際看護」の二本柱で構成



動画5本収録

看護の統合と実践 ④ 国際化と看護 第1版

新刊

→ 詳細は p.100

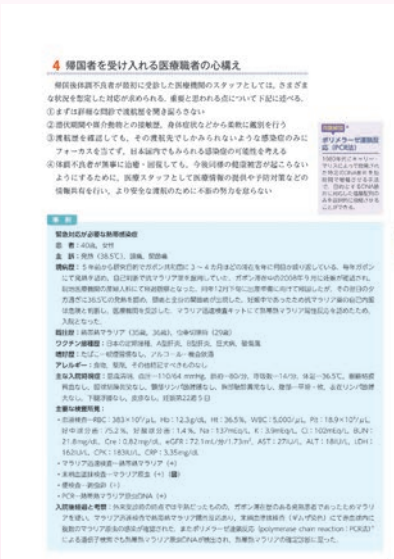
編集 大橋 一友 大手前大学国際看護学部教授
岩澤 和子 大阪信愛学院大学学長

- **海外の第一線で活躍する執筆陣の実体験に基づく事例**を通して、今のグローバルな看護の視点が学べます。
- **国内での多様な文化背景をもつ患者に向けた看護や支援の例が充実**。臨床での在留・訪日外国人患者への対応がイメージできます。
- 言葉の壁、医療通訳、保険制度、在留資格などの**社会的な問題について深く取り上げています**。
- グローバル化によって引き起こされる**感染症への対策やリスク管理**について学ぶことができます。

※単行本『国際化と看護』は2025年度採用からナースィング・グラフィカシリーズとしてご提供します。

2025年版新刊

NURSING GRAPHICUS



事例が充実。
臨床での対応がイメージできる



海外と国内の両方の視点から
国際看護を学べる

看護管理



電子版あり

●B5判 336頁 カラー 定価3,080円(本体2,800円+税10%) ISBN978-4-8404-7845-8 第5版 2023年1月

本書の内容

- 「看護の価値を基盤とした管理」「ケアを大切にする職種としての管理」という考えを基本とします。
- 「1年次から学べる看護管理」をキーワードに、看護管理を身近に感じ、学ぶテキストを目指します。
- 「看護管理」は組織のリーダーのみが行うものではなく、看護活動の中に組み込まれたものであること、したがって自身のセルフマネジメント、個別ケアにおいて、看護職として必要な視点・能力であることを認識できるような構成とします。
- 病院での看護や看護管理だけではなく、地域包括ケアの時代に求められるコミュニティの視点、ケアの継続性の視点、市民参加・市民を中心とした視点を取り入れた看護管理を学ぶことを目指します。
- 多様な看護の対象を尊重する視点、国際化の視点(国籍の多様性/外国籍看護師との協働など)、社会人経験看護師の増加といった多様な背景をもつ看護師間の協働といったダイバーシティの視点をもったテキストを目指します。
- 看護師国家試験出題基準(令和5年版)に照合させた構成・内容とします。

編集

吉田 千文	前 聖路加国際大学教授	手島 恵	千葉大学大学院看護学研究院教授
志田 京子	大阪公立大学大学院看護学研究科教授	武村 雪絵	東京大学医学部附属病院看護部長

執筆(掲載順)

吉田 千文	前 聖路加国際大学教授 <1章1・2節, 2章1・5・7節, 3章1・3節, 9章1節>	高井今日子	町田市民病院看護部長<4章5-7節>
手島 恵	千葉大学大学院看護学研究院教授<1章3節, 10章4節>	山田佐登美	川崎医療福祉大学看護実践キャリアサポートセンター センター長, 川崎医科大学総合医療センター看護部長参与<5章2節>
武村 雪絵	東京大学医学部附属病院看護部長 <1章4節, 4章8節, 9章2・5節>	中三川厚子	介護老人保健施設葵の園・浦和 看護師長<6章, 10章2節>
荒木 暁子	東邦大学看護学部教授<2章2・3節, 5章4節>	益 加代子	大阪公立大学大学院看護学研究科准教授<7章2・3節>
松浦 彩美	順天堂大学医療看護学部准教授<2章4節>	秋山 美紀	埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学教授<8章1・3節>
大塚真理子	長野県看護大学学長<2章6節>	中山 和弘	聖路加国際大学大学院看護学研究科教授<8章2節>
倉岡有美子	令和健康科学大学看護学部看護学教授<3章2節>	木田 亮平	石川県立看護大学看護学部准教授<8章4節>
柳橋 礼子	公益社団法人東京都看護協会会長<4章1節>	磯部 環	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻助教<8章5節>
志田 京子	大阪公立大学大学院看護学研究科教授 <4章2・3節, 5章1・3節, 7章1・4・5節>	國江 慶子	東京都立大学大学院人間健康科学研究科看護学域准教授<9章3節>
撫養真紀子	兵庫県立大学看護学部・大学院看護学研究科教授 <4章4節1・2・4項>	奥 裕美	聖路加国際大学大学院看護学研究科教授<9章4節>
小山田恭子	聖路加国際大学大学院看護学研究科教授 <4章4節3項, 10章1節>	関根小乃枝	厚生労働省老健局老人保健課<10章3節>
		清水日佐愛	匝瑳市訪問看護ステーションつばきの里<付録>
		前田 浩	順天堂大学医学部附属順天堂医院手術室・看護師長, 手術看護認定看護師/認定看護管理者<付録>

目次

- 第1章 ● 社会の変化と看護職の役割**
人々の生活と看護の関わり/日本の看護職の活動の変遷/SDGs: これからの社会と看護の役割・責任/看護のイノベーション
- 第2章 ● 協働: 他者と共に活動すること**
チームを効果的に機能させる/リーダーシップ/フォロワーシップ/チームの一員に求められる協働のための行動/継続看護のための協働/市民・多職種との協働/効果的な「話し合い」
- 第3章 ● 看護マネジメントとは**
看護マネジメントとは/看護マネジメントのプロセス/「効率的・効果的に仕事をす」ということ
- 第4章 ● 組織で取り組む看護活動**
組織とその構造・機能/分業と協働のしくみ/サービスマネジメント/働く人を生かすマネジメント/モノの管理/情報の管理/カネの管理/非常時への備え
- 第5章 ● 看護の質向上のための取り組み**
看護組織の活動と倫理/医療安全/医療・看護の質改善/組織変革の方法

- 第6章 ● 看護と経営**
看護と経済/看護活動と経営
- 第7章 ● 業務のマネジメント**
業務計画の立案とプロセスマネジメント/チームメンバーとの情報共有と協力/多課題における対応/夜間における業務マネジメント/業務遂行上の情報管理
- 第8章 ● セルフマネジメント**
健康的な働き方/ヘルスリテラシー/メンタルヘルス/からだの健康を保つ/時間の管理
- 第9章 ● 看護専門職とキャリア**
専門職とは/社会人になること/看護専門職としてのキャリア/看護職の生涯学習/看護管理に必要な能力
- 第10章 ● 看護現場に影響を与える制度と法律**
看護マネジメントに関係する主な法律/看護に関わる医療・介護制度/保健医療福祉政策と最近の動向/看護の関連機関と団体

シラバス・授業計画案あり

動画 11本収録

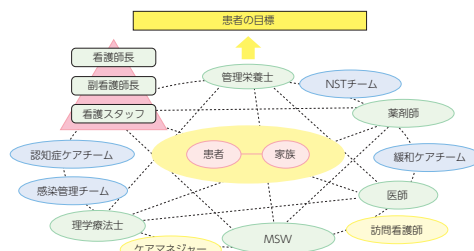


図2-16 入院患者を協働して支援する多職種やチーム

“チームや組織を動かす高度な能力”には、多職種チームやカンファレンス、ケア会議などでリーダーとしてリーダーシップを発揮したり、ファシリテーター*として多職種同士やチームメンバー間の対話や議論を促進したり、コーディネーター*として多職種間の調整をしたり、関わる多職種やチーム全体の組織運営を行うマネジメントなどがある。特に、IPWは、絶え間ない変化が必要な支援活動のため、そのリーダーはメンバーである多職種を信頼して関係性を築き、自発的に問題解決が図れるように協働を促進するファシリテーターのリーダーが求められる。

看護職は、誰もが「協働の基本的な能力」を有した上で、各チームではチ

用語解説*
ファシリテーター
チーム活動の促進者。チーム全体を機動的にみて中立的な立場で人と人との関係をよく観察し、関係性に働きかける高度な能力が必要である。チームメンバーの誰もが務めることが可能であり、能力育成をしていく必要がある。

難しい内容をわかりやすく図解

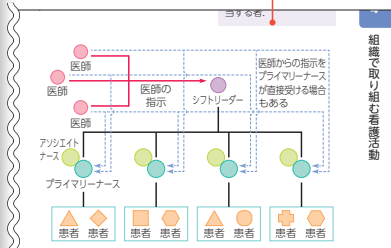


図4-11 プライマリーナーシングシステム

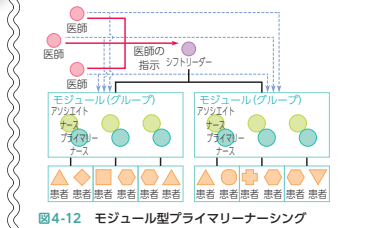


図4-12 モジュール型プライマリーナーシング

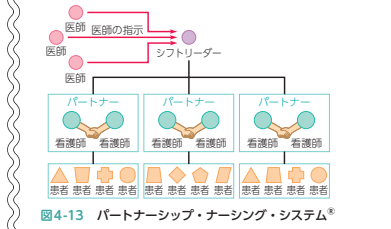


図4-13 パートナーシップ・ナーシング・システム*

p.69

者ケアに生かせることを実感し、より知識を深めたいと考えようになった。Aさん自身の希望と、上司の勧めもあり、認定看護師になることを決意。その1年後、糖尿病看護認定看護師教育課程に応募した。休職制度を利用して、教育課程を修了、認定審査を受け糖尿病看護認定看護師となった。

現在、専門的な知識・技術を生かした日々の看護ケアに加え、病院の中で組織横断的に働く糖尿病ケアチームでの活動、糖尿病教室の運営に携わっている。



事例
課題を明確にしてステップアップするBさん
公立病院に就職し、一般外科病棟3年、頭頸部外科病棟4年を経て、循環器病棟に異動となったBさん。今までの病棟経験に加え、循環器病棟で繰り返し入院する患者との関わりを通じ、退院支援や外来看護の重要性を強く感じるようになっていた。そんな折、病棟での退院調整係となり、退院調整に関する知識やケアを積極的に伝える役割を担うようになる。結婚後、出産・育児による休業を経て、短時間勤務で職場復帰。復帰後は循環器内科を含む外来に異動となったが、外来で退院後の患者と関わる中で、退院支援についての課題が明確となった。

現在、Bさんは患者支援室に異動し、退院調整に携わる看護師として勤務している。



事例
訪問看護ステーションを起業したCさん
総合病院の内科病棟に就職したCさんは、3年後、学生時代から関心があった訪問看護師になるため病院を退職し、訪問看護ステーションに再就職。経験を積みながら、3年後にはケアマネジャーの資格を取得した。訪問看護を通じ、医療的なケアが必要であったり、つらい症状がある利用者でも、適切なプランを作成しケアが提供できれば、自宅でその人らしく生活できることを感じていた。その後、自分が理想とするケアを目指し、訪問看護ステーションを立ち上げた。



事例
臨床経験を経て大学院で学び直し、看護教員になったDさん
総合病院に就職し、外科系病棟で5年間勤務した後、内科病棟に異動となった。高齢者に対する急性期医療に関心をもったDさんは、さらに3年後、このテーマについて研究するため大学院に入学した。大学院では研究のほか、看護学生への実習指導にも関わる機会があり、教える楽しさを感じていた。修士課程修了後、研究と看護教育に携わりたいと思

事例を用いてよりイメージしやすいように工夫

看護の統合と実践 ②

医療安全



電子版あり

B5判 288頁 カラー 定価3,300円 (本体3,000円+税10%) ISBN978-4-8404-7846-5 第5版 2023年1月

本書の内容

- 「なぜ、事故は起きるのか」「どんな事故が起きるのか」「起きてしまったらどうするのか」を順序立てて記述し、スムーズに読み進むことができるよう工夫しています。
事故を防ぎ、安全を確保するために重要なチーム医療についての解説が充実しています。
患者や療養者だけでなく、医療従事者にとってのリスクについても手厚く解説しています。
看護実習における医療事故と対応、実習で習得すべき看護技術のリスクと安全について丁寧に解説しています。

編集

山下由美子 山梨県立大学名誉教授、佐久大学客員教授
杉山 良子 元 武蔵野赤十字病院医療安全推進室専従リスクマネジャー・看護師長、元 日本赤十字社事業局医療事業部医療安全課長
小林 美雪 元 健康科学大学看護学部看護学科教授

執筆 (掲載順)

山下由美子 山梨県立大学名誉教授、佐久大学客員教授 <1章1節/8章>
種田憲一郎 国立保健医療科学院上席主任研究官 <1章コラム,4章>
小林 美雪 元 健康科学大学看護学部看護学科教授 <1章2節/2章1・3・4・5・7・8節>
佐々木久美子 元 日本看護協会事業開発部チーフマネジャー <2章2節1>
岡本喜代子 公益財団法人東京助産師会館理事長 <2章2節2>
高山 詩穂 聖徳大学看護学部看護学科広域基盤看護領域准教授 <2章6節,2章コラム1>
勝村 久司 医療情報の公開・開示を求める市民の会代表世話人 <2章コラム2>
河野龍太郎 株式会社安全推進研究所代表取締役所長、自治医科大学名誉教授 <3章>
杉山 良子 元 武蔵野赤十字病院医療安全推進室専従リスクマネジャー・看護師長、元 日本赤十字社事業局医療事業部医療安全課長 <5章>
島田 珠美 川崎大師訪問看護ステーション統括管理者/療養通所介護まこと管理者 <6章>
白鳥さつき 名古屋学芸大学看護学部教授 <7章1節,4~7節>
森 那美子 国立看護大学校看護学部准教授 <7章2・3節>

目次

- 第1章 医療安全と看護の理念
医療安全の意味と重要性/看護職の法的規定と医療安全
第2章 医療安全への取り組みと医療の質の評価
国の医療安全への取り組み/看護職能団体の取り組み/国および医療関係団体の示す医療事故の定義と分類/医療安全管理者:医療安全の中心的役割/医療事故への対応/医療事故の被害者(患者)・家族の思いに寄り添ったケア/医療事故の報告制度/医療の質の評価
第3章 事故発生メカニズムとリスクマネジメント
事故発生メカニズム/事故分析/事故対策
第4章 チームで取り組む安全文化の醸成
チーム医療の発展と課題/チームSTEPPS:エビデンスに基づいたチームトレーニング
第5章 看護業務に関連する事故と安全対策
看護業務と事故発生要因/誤薬と与薬事故:分析と対策/患者取り違え(誤認):分析と対策/針刺し:分析と対策/転倒転落:分析と対策/誤嚥:分析と対策/異物遺残:分析と対策/皮膚障害:分析と対策/医療機器のトラブル:分析と対策/検査、処置時のトラブル:分析と対策/チューブ類のトラブル:分析と対策/電子カルテ等情報伝達時のトラブル:分析と対策
第6章 在宅看護における医療事故と安全対策
在宅看護の現状/在宅看護における医療事故とその対応/在宅看護におけるリスク管理の現状と課題/高齢者施設、介護施設等での安全対策
第7章 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策
看護職の業務上の危険とは/感染の危険を伴う病原体への曝露/職業感染に対する予防策/医療機器・機材の使用に関するリスクと対策/医薬品への曝露/労働形態、作業に伴うもの/患者、同僚および第三者による暴力
第8章 看護学生の実習と安全
実習における事故の法的責任と補償/実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応/医療安全をどう学ぶのか/習得すべき看護技術のリスクと安全/実習における安全についての指導者の役割:予防と事故発生時の対応

シラバス・授業計画案あり

動画 32本収録
QRコード

1 事故発生メカニズム

1 ヒューマンエラーとは

ヒューマンエラー*が関係した事故が発生すると、エラーを犯した人が「不注意だったから」「しっかりしていないからだ」と非難されることが多い。しかし、エラーは単に不注意だけで発生するのではない、私たちは日常生活の中で数々のエラーを犯している。ただ、その多くは重大な結果をもたらしていないだけである。エラーが関係したと考えられる重大事故も日常の小さなエラーも、同じレベルのエラーから発生していることを、まず理解しなければならない。

用語解説* ヒューマンエラー
事故や災害を生み出しうる人的ミスのこと。意図したわけではないが、不本意な結果を防ぐことができなかった場合、きっかけとなった人間の行為はヒューマンエラーと呼ばれる。

1-1 航空機事故
航空機事故は多数の犠牲者が出ることから世間の注目を集める。そのため、ヒューマンエラーが関係した航空機事故では、日常では考えられないくらい重大なエラーがあったと思われるかもしれない。しかし、実際には、日常生活のエラーと大きな差はない。違うのは結果の重大性だけである。

事例 ①

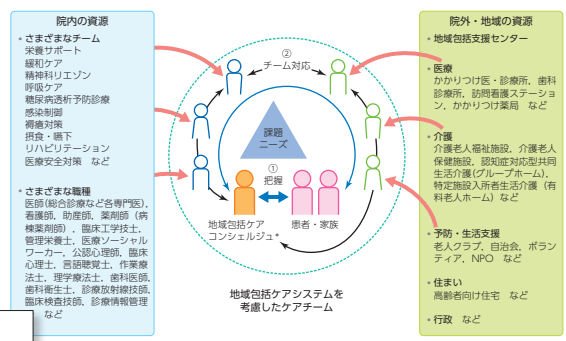
1992年1月20日午後6時ごろ、フランスのストラスブール手前の山にエアバスA320型機が墜落し、87人の犠牲者が出た。墜落事故の原因として、パイロットが機体の操作を誤った。機長は空港が近づいてきたため操縦室にあるパネルを誤って操作し、機長は「-3.3」とセットしたつもりだったが、実際には「-3.300」と設定された。すなわち、この墜落事故は、表示パネルのイロットのエラーを誘発したものと考えられた。

p.82

チームSTEPPSに基づくチーム医療を詳しく解説

2 チームに求められる基本原理と実践能力

1 チーム体制と四つの実践能力
チームSTEPPSは、エビデンスに基づいたチームトレーニングの方法であり、チーム医療の基本原理としてのチーム体制と四つの実践能力(コミュニケーション、リーダーシップ、状況モニター、相互支援)を提案している。すなわち、よりよいチームとして協働するためには、まずは患者・家族の課題やニーズに合わせて、院内外のさまざまなチームのメンバーが直接的、間接的に必要であると確認する(チーム体制)、患者・家族もチームのメンバーまたはパートナーと位置づけ、協働するために、患者・家族も主体的に取り組めるチーム体制を構築する(図4.2-2)。



p.130



p.247

・リスクと安全
転倒転落事故のリスクがある。
①ベッドは患者に合わせて、病室の入り口に近く、トイレや看護室に近いところに配置する。
②ベッド本体の高さ、ベッド用サイドレールの有無、本数は、転倒転落事故との関連が強い。患者の状態に合ったベッドの高さの調整、ベッド用サイドレールの設置を行う。作業後のベッド用サイドレールの付け忘れは、転倒転落の危険につながりやすいため、作業後の点検を行う。指さし呼称(図8.4-1)が有効である。
③ナースコールを置く位置や長さを検討して、患者が使いやすくする。
④ベッド、床頭台、オーバーテーブルのキャスターにストッパーをかける。このとき、患者がキャスターにつまずいて転倒しないよう、キャスターを内側に倒す。

p.257

安全な技術と事故対策を学び、実習に備える

看護の統合と実践 ③

災害看護



電子版あり

●B5判 312頁 カラー 定価3,080円(本体2,800円+税10%) ISBN978-4-8404-7545-7 第5版 2022年1月

本書の内容

- 被災地での看護活動に多数参画する筆者らが、災害看護において大切なこと、学んでほしいことを丁寧に解説しています。
●災害サイクルに応じた看護活動のポイントを詳しく解説し、特に静穏期・準備期は防災・減災マネジメントの視点で取り上げています。
●高齢者や障害者、子ども、妊産婦に加え、がんや糖尿病、呼吸機能障害など、継続的な治療を必要とする要配慮者に対する看護を幅広く網羅。より具体的な看護とケアが学べます。
●「心のケア」については被災者に対するケアだけでなく、支援者に対するケアも深く掘り下げています。支援者が陥りやすい心理状態を知っていれば、臨床現場でも必ず役立ちます。

編集

酒井 明子 福井大学名誉教授、日本災害看護学会理事長
長田 恵子 東京医療保健大学立川看護学部看護学科教授
三澤 寿美 元 東北福祉大学健康科学部保健看護学科教授

執筆(掲載順)

酒井 明子 福井大学名誉教授、日本災害看護学会理事長
大嶋 理恵 福井大学医学部附属病院副看護師長・災害看護専門看護師・救急看護認定看護師<1章コラム>
木村 哲也 福井大学医学部附属病院救急部部長・診療教授
上田 耕蔵 神戸協同病院院長<2章2節>
津久井 進 芦屋西宮市民法律事務所弁護士<3章1節>
永井 幸寿 アンサー法律事務所所長<3章2節、3章コラム>
木村 拓郎 減災・復興支援機構理事長<4章1節>
長田 恵子 東京医療保健大学立川看護学部看護学科教授
江津 繁 国立病院機構埼玉病院看護師長
室崎 益輝 神戸大学名誉教授、兵庫県立大学特任教授<4章3節1、6章6節、9章1節・3節2>
村井 雅清 被災地NGO協働センター顧問<4章3節2>
高以良 仁 国立病院機構災害医療センター救命救急科副看護師長
三橋 睦子 国際医療福祉大学福岡保健医療学部看護学科学科長・教授
千島佳也子 国立病院機構本部DMAT事務局災害医療課厚生労働省DMAT事務局<5章コラム>
酒井 彰久 福井大学医学部看護学助教授・災害看護専門看護師<6章3節>
佐々木久美子 日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科特任教授<6章4節>
石口 房子 NPO法人日本ホスピス・在宅ケア研究会副理事長
濱本 千春 YMCA訪問看護ステーション・ピース所長・がん看護専門看護師
小塚 浩 国立病院機構本部DMAT事務局<6章コラム1>
小林 賢吾 熊本赤十字病院看護部手術センター看護係長兼国際医療救援部救護課教授係長・災害看護専門看護師<6章コラム2>
中川 愛子 NPO法人日本ホスピス・在宅ケア研究会理事<6章コラム3>
千葉 真也 宮城県大郷町役場保健福祉課健康増進係長・保健師
前田 潤 室蘭工業大学大学院教授<7章>
頼政 良太 関西学院大学社会起業学助教授<7章コラム>
窪田 直美 地域医療振興協会公立丹南病院地域医療連携室室長・災害看護専門看護師<8章1節>
松岡 千代 甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科教授
黄 淵熙 東北福祉大学教育学部教育学科教授<8章3節1・2>
阿部 一彦 東北福祉大学客員教授、東北福祉大学名誉教授<8章3節3>
磯見 智恵 福井大学医学部看護学科教授<8章4節1~3・7>
繁田 里美 元 福井大学医学部看護学科准教授<8章4節4・5・8>
清水 誉子 福井大学医学部看護学科講師<8章4節9>
川口めぐみ 福井大学医学部看護学科准教授<8章4節11>
三澤 寿美 元 東北福祉大学健康科学部保健看護学科教授
宮澤イザベル 東北医科薬科大学病院総合診療科医師<8章8節>
小原真理子 京都看護大学大学院看護学研究科非常勤講師
八木橋香津代 スズキ記念病院前看護部長・助産師<8章コラム4>
花房 亮 国立病院機構埼玉病院看護師長<9章2節>
川口 淳 三重大学大学院工学研究科教授<9章3節3>
西上あゆみ 藍野大学医療保健学部看護学助教授<9章コラム1>
加藤 令子 関西医科大学看護学部学部長・研究科長・教授<9章コラム2>
花房八智代 永平寺町役場防災安全課・災害看護専門看護師<9章コラム3>
神原 咲子 神戸市看護大学看護学部基盤看護学災害看護・国際看護学分野教授<10章>
吉椿 雅道 CODE海外災害援助市民センター事務局長<10章コラム1>
作川 真悟 武生看護専門学校・災害看護専門看護師<11章コラム>
中山 洋子 文京学院大学大学院看護学研究科特任教授<12章1節1>
伏見木綿子 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構<12章1節2>

シラバス・授業計画案あり

動画15本収録



4 火山・噴火災害

日本は世界有数の火山国である。近畿・中国・四国地方を除いた地域に広く活火山が分布し、2021(令和3)年現在、111の活火山が認定され監視されている。噴火により火山性ガスや溶岩塊を噴出したり、火砕流や土石流を引き起こし、時に大きな被害をもたらす。また、ほかの自然災害に比べ、噴火活動を繰り返すことで災害が長期化する。

1 | 火砕流による熱傷・外傷死

火砕流とは、1,000℃近くに達する高温の火砕物が、時速100kmを超える速さで斜面を流れ下る現象で、遭遇すれば火砕物による直接的な外傷を負う。一度発生してしまうと避難することは極めて困難であり、危険指定区域に立ち入らないことが唯一の予防策である。

2 | 火山性ガスと噴石

火山噴火では、大量の二酸化炭素や硫化水素などの有毒ガスと同時に、初速300km/h以上の速さで多くの噴石が噴出する。2014(平成26)年の御嶽山の噴火災害では、大量の噴石による直接的な外傷で多くの犠牲者を出した。

方法などを示した地図。国の防災機関や地方自治体などで作成・公表されている。

plus 01

鬼怒川の氾濫

2015(平成27)年9月10日から11日にかけて台風第19号による大雨が関東・東北地方を襲い、鬼怒川では洪水や堤防の決壊が発生し、大きな被害をもたらした。



●御嶽山の噴火災害(動画)

動画で災害情報がイメージできる

p.35

災害看護の実際を詳しく解説

表 6.3-5 COVID-19を踏まえた避難所の対応例

- 3密を避けた滞在スペースの確保
・滞在スペースは可能な限り2m間隔で簡易ベッドやパーテーションを設置する(図6.3-3)。
・デントがあれば積極的に利用し、隣席との密を防ぐ。
・感染が疑われる場合は、別室する場所を分けたいことがわかるように色テープで示す。
・感染が判明している人と感染が疑われる人の利用できる避難所を近隣で区分けする。
・近隣で区分けられない場合は、施設内で区分け(空き室の利用等)を考慮する。その際に、利用できる場所も区分け(居住部、トイレ、洗面所等)を行う。
・駐車場や広いグラウンドがある場合、テント泊や車中泊ができるスペースを確保する。
感染が疑われる人。重症化するリスクの高い人への対応
・避難所の受付前、事前受付をつつて問診・体温測定を行い、「感染が判明している人もしくは感染が疑われる人」また「重症化するリスクが高い人(要配慮者：慢性疾患を抱えた人、高齢者、妊婦等)」のトリアージを行う。
・感染が疑われる人、症状がある人、具合が悪い人は、個室(個室や隔離室等)に入ってもらおう。
・出入口が2か所以上ある建物の場合は、感染が判明している人、感染が疑われる人、症状がある人、具合が悪い人と、それ以外の人とで出入口と動線を区別する。
・緊急時に備え、感染が判明している人、感染が疑われる人、症状がある人、具合が悪い人はできるだけ建物出入口に近い個室に入ってもらおう。
避難所内の生活環境について
・食事は配給は、時間をずらして順番に食事を受け取るようにする。
・更衣室は2カ所を開設し換気しておく(更衣室も活用して空気の入れ替えを促す)。
・避難所の2カ所の扉やドアを開けて空気の入れ替えをつくり、少なくとも30分に1回以上、空気を換気し換気を行う。
・不特定多数の人が集まる場合は、1日複数回の拭き掃除を行う。雑巾など消毒用アルコールのものを提供する。

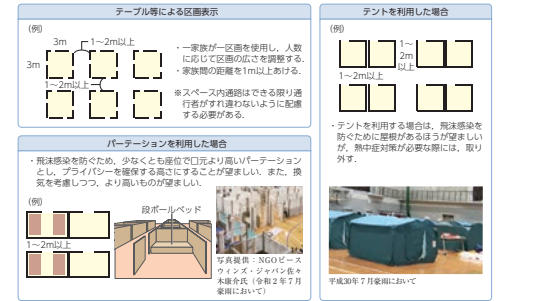


図 6.3-3 避難所滞在スペースのレイアウト例

目次

- 第1章 ● 災害看護とは
災害看護の定義/災害と倫理/コラム：被災地内医療者と被災地外支援者の間の葛藤
第2章 ● 災害の種類と健康被害
災害の種類と被害・疾病の特徴/災害関連死
第3章 ● 災害に関する法制度
災害医療に関する国の政策/災害医療に関する法律/コラム：災害と「緊急事態条項」
第4章 ● 災害時の支援体制
災害時の情報収集と伝達/災害医療体制/災害時における連携と協働/コラム：熊本地震におけるDMATの活動を振り返って
第5章 ● 災害医療活動の特徴
災害サイクル/体系的対応の基本原則/トリアージ/応急処置：治療/移送・搬送/感染症対策/コラム：「災害看護は看護の原点である」という言葉に支えられた日々
第6章 ● 災害初期から中長期における看護活動
初動時(超急性期・急性期)における看護活動/医療救護所での看護活動/避難所での看護活動/応急仮設住宅での看護活動/自宅避難者に対する看護活動/復興期の看護活動/コラム：鬼怒川水害～看護者として何が出来るか～/コラム：熊本豪雨における保健師に寄り添った避難所支援と在宅支援/コラム：応急仮設住宅での24時間365日体制の支援活動/コラム：住み慣れた家・地域での暮らしの喜び～仮設住宅での暮らしを経験して～
第7章 ● 被災者と支援者の心理の理解と援助
被災者の心理の理解と援助/遺族に必要な支援と看護/支援者の心理の理解と援助/

国際化と看護

※単行本『国際化と看護』は2025年度採用からナースング・グラフィカシリーズとしてご提供します。

電子版あり

●B5判 256頁 カラー 定価2,860円(本体2,600円+税10%) ISBN978-4-8404-8473-2 第1版 2025年1月



本書の内容

- 日本国内における外国人への看護や国際協力活動における看護など、豊富な事例を紹介しています。相手のもつ、文化や宗教などさまざまな背景に配慮した、「個」をみる看護の実践を学ぶことができます。
- グローバルな看護活動に関わる国際機関や健康目標、日本が国際協力活動で果たす役割など、国際看護の基礎を丁寧に解説しています。
- 特に在留・訪日外国人への看護に焦点を当て、外国人患者が日本で看護を受ける際のさまざまな壁を丁寧に解説し、ケアのポイントや工夫を紹介しています。
- 医療通訳や感染症、トラベルメディスンなど、今後さらに求められる国際看護の知識を掘り下げて解説しています。
- 海外で働く日本人看護師・助産師や、在留外国人が抱える問題の背景と課題、国外で流行する感染症など、バラエティ豊かな話題をコラムで紹介しています。

編集

大橋 一友	大手前大学国際看護学部教授	岩澤 和子	大阪信愛学院大学学長
-------	---------------	-------	------------

執筆(掲載順)

大橋 一友	大手前大学国際看護学部教授<1章1節, 3章4節>	村松 紀子	医療通訳研究会(MEDINT)代表, 社会福祉士<4章コラム>
長松 康子	聖路加国際大学看護学部・大学院看護学研究科准教授<1章2節・3節>	鈴木 恵巨	公益社団法人日本看護協会国際部部長<4章4節>
新垣 智子	地方独立行政法人りんくう総合医療センター患者サポートセンター・国際診療科副看護師長<1章囲み・4節, 5章1・2・3節・コラム>	植木 慎悟	九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野准教授<5章4節>
本庄かおり	大阪医科薬科大学医学部教授<2章1節>	嶋澤 恭子	大手前大学国際看護学部教授<5章5・6節・コラム>
杉田 塩	厚生労働省 前大臣官房国際課国際協力室国際協力専門官<2章2節, 3章3節>	堀 成美	東京科学大学大学院歯学部総合研究科統合臨床感染症学分野非常勤講師<5章7節・コラム>
鈴井江三子	大手前大学大学院国際看護学研究科研究科長・教授<2章3節, 3章1節>	吉富志津代	武庫川大学心理・社会福祉学部教授<5章コラム, 7章1節>
萬谷 恵実	認定NPO法人あおぞらオーストラリアプロジェクトスタッフ<2章コラム>	佐藤 文子	甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学教授<6章1節>
高田 洋介	日本赤十字広島看護大学国際看護学・災害看護学講師<3章2節>	五十嵐ゆかり	聖路加国際大学大学院看護学研究科ウィメンズヘルス・助産学教授<6章2節>
橋本 香織	福岡赤十字病院看護部看護士長<3章5節>	李 錦純	関西医科大学看護学部・大学院看護学研究科教授<6章3節>
中道 美言	UCSF Benioff Children's Hospital San Francisco, Pediatric Intensive Care Unit (PICU) / Transition Care Unit (TCU), Nurse Practitioner (NP) <3章コラム>	松村麻衣子	大阪信愛学院大学看護学部助教, 精神看護専門看護師<6章4節>
吉野 都	Registered Midwife Royal North Shore Hospital, Women's, Child & Family Health Devison <3章コラム>	中村 千賀	大阪信愛学院大学看護学部助教<6章5節>
南谷かおり	地方独立行政法人りんくう総合医療センター国際診療科部長, 大阪大学医学系研究科公衆衛生学教室招へい教授<4章1・2・3節>	斎藤 善久	神戸大学大学院国際協力研究科准教授<6章コラム>
		小笠原理恵	大阪大学大学院医学系研究科国際未来医療学講座特任講師, 大阪大学医学部附属病院国際医療センター副センター長<7章2節>
		三島 伸介	関西医科大学総合医療センター総合診療科・感染症内科診療部長, 海外渡航者医療センターセンター長<8章1節>
		山下いつ子	福岡検疫所鹿児島空港出張所課長補佐<8章2節>
		小川 拓	大阪医科薬科大学病院感染対策室室長・講師<8章3節>

目次

- 第1章 ● グローバルに看護を考えるということ**
グローバルな看護職/国際看護の変遷/国境を越える人の社会的動向/臨床現場からみたグローバルな看護
- 第2章 ● 地球規模の健康課題と保健医療を支える機関**
地球規模課題としての社会的健康格差/世界の保健医療を支える機関と重要な概念/国際的な協力活動と看護
- 第3章 ● 海外における看護**
国際協力活動で看護師として働くには/災害現場での看護/国際協力に取り組む看護の質の向上/ODA・JICAに関する事例/バングラデシュにおける日本赤十字社の地域保健活動
- 第4章 ● グローバル化する日本の医療の現場**
日本の医療機関における外国人診療/外国人を診る日本の医療機関/医療通訳とは/グローバル化する日本の看護
- 第5章 ● 病院における外国人への看護**
在留外国人と訪日外国人の特徴と看護/外来を受診する訪日外国人への看護/救急搬送されてきた患者への看護/子どもへの看護/新生児への看護/妊産婦への看護/感染症の疑いのある患者への看護
- 第6章 ● 地域における在留外国人への支援**
地域における看護職の活躍/母子健康支援/高齢者への支援/地域における精神看護/がん患者の訪問看護
- 第7章 ● 国内外における支援の課題**
国内における在留外国人への支援の課題: 医療通訳制度確立に向けた取り組み/海外における支援の課題
- 第8章 ● 渡航における感染対策と健康支援**
国境を越える感染症とそのリスク/感染症の検疫/渡航における健康支援

シラバス・授業計画案あり

動画5本収録



7 感染症の疑いのある患者への看護

事例

頭痛と発熱で受診した留学生
 名 前: グエン・ケイ
 年 齢: 24歳
 性 別: 男性
 出身国・国籍: ベトナム社会主義共和国
 滞日歴: 3カ月
 職 業: 日本語学校の学生。ほかの学生とともに日本語学校の寮で共同生活をしている。
 既往歴: 不明
 診 断: 水痘
 保険の加入: 国民健康保険



1 概要

数日前から続く頭痛が悪化し、発熱が出てきたため、学校の職員と共に夕方救急外来を受診した。食欲もなく、来院時の体温は37.7℃であった。倦怠感が強い。診断は水痘であり、入院となった。

2 アセスメント

グエンさんは片言の日本語しか話せないため、初診担当の看護師が付き添いの学校職員に経緯を尋ねたが、「～らしい」「～と思う」という不確かな情報しか得られなかった。そのため、病院が契約している遠隔医療通訳を介して問診・診察を行い、現病歴と既往歴、ワクチン接種歴、似たような症状のある人

p.161



図3-10 指導者研修の様子

修の継続的な運用という意味で重要である。そこで、定期的に研修を評価するモニタリング、病院の外部アドバイザーからアドバイスをもらえるスーパービジョン、基準に基づいて研修が実施できているかを評価する監査の各指針を保健局担当者と作成し、そのしくみを整えた。

4 ベトナム全国へ臨床研修を普及・定着させる

プロジェクト期間中は、研修制度づくりとプロジェクトサイトへの臨床研修導入を中心に活動を行いながら、終了後にベトナム全国へ普及・定着させるための下準備も同時に行った。保健省がいつまで何をやるのかをまとめたロードマップを作成し、人事異動があっても研修が実行される体制とした。またプロジェクトで開発した教材などを、保健省が全国で使用するための承認する行政手続きや、看護界のリーダーが参加する看護の学会や看護協会などへの情報発信に取り組んだ。

6 国際協力に参画した学び

国際協力は、互いの学び合いである。ベトナムのことを教えてもらい、日本のことを伝え、ベトナムの看護において何が一番良いのかを一緒に検討するこ

p.98

豊富な事例で国内における看護の実際をイメージ

る独特の文化があるため、対象者の死生観や宗教観についても早期の段階から理解しておくことが大切である。

5 在宅療養者の支援における工夫

1 安心感につながるコミュニケーションの工夫

制度や病状の説明では、やさしい日本語でゆっくりと話し、イラストを用いた説明方法などを工夫する。ヨンジャさんの理解度を確認しながら、繰り返し耳元で大きな声でゆっくりと説明する。

自習が必要な場合は、別紙に大きな文字であらかじめ氏名を書き、それを見本として本人に名前を書いてもらう。ヨンジャさんは、四肢不全麻痺の進行により記名自体が難しくなったため、一部介助により行う。

本人と長男の意向を的確にとらえるため、状況に応じて地域の在日コリアンコミュニティや支援団体、コミュニケーション・サポーター派遣制度など、社会資源を活用する。また、韓国人の場合、「○○さん」よりも「オモニ(お母さん)」と呼びかけるほうが親しみや情が伝わりやすい場合もある。

2 文化的背景の理解と尊重

ヨンジャさんの生活歴を知り、その人らしさを形成している文化的背景や価値観、信念、アイデンティティを日々の関わりからとらえる。ヨンジャさんの生活歴と病歴を含めた個人の歴史を知ることが、現在の対象理解を深めることにつながる。

経口による食事は減ってきたが、ヨンジャさんの好みにあわせて母国の味付けを適宜取り入れるよう、ホームヘルパーに依頼する。在日コリアンは、先祖の法事を大切にしている習慣がある人が多く、該当日にホームヘルパーの訪問があると、法事で供える食事の調理や買い物に依頼することがある。

3 介護保険制度およびサービスに対する説明の工夫

契約や費用、サービス内容の追加や変更など重要な事項を説明するときは、可能な限り長男にも同席してもらうようにする。必要なサービスの種類と具体的内容、保険給付で対応できることのできないことについて繰り返し丁寧に説明し、理解を促す。

4 在宅関連専門職の連携・協働

ヨンジャさんの在宅療養支援にはさまざまな職種が関わっているため、ヨンジャさんの日中の様子など、多機関・多職種専門職が気軽に連絡し合える良好な関係づくりを心掛ける。

サービス担当者会議を効果的に活用し、ヨンジャさんの在宅生活の状況および文化的特性、コミュニケーション上の課題や対策について、ケアに関わる多

192

国際協力について具体的に学ぶ